

平成29年度 一般選抜中期日程/経済学科・公共マネジメント学科 外国語  
出題の意図と解答の傾向

I (140点)

問1

【出題の意図】

全体の文章の流れに即して必要となる英単語を空欄に書き入れる問題。この問題では文章読解力と文法能力の両方が求められる。

【解答の傾向】

Aに from を入れている学生が目立った。Let's start ( A )the idea ~で start に引きずられたのが原因か? Cの副詞の役割をする that を入れる問題は、ほぼ出来ていなかった。目立ったものとしては、any。

問2

【出題の意図】

出題箇所の前にある内容、後に続く内容を正確に把握し、簡潔にまとめることができるかを問う問題。

【解答の傾向】

- (1) 「何が」 superficial kind of truth なのか理解できている答えは予想に違わず多かった。正解できていない答案をみると、ほとんどが「どうして」についての理由が説明できていない答案であった。
- (2) 「どうして」 superficial なのかの説明では、文中 because という単語に引っ張られたために混乱したのではと思われる答案が意外だったが、多かった。ひとつは、「若干の真実があるために」(言明内容が) superficial でない、正しいとまで言い切る、正解とは逆の読み取りをする答案、もうひとつは「決まり文句のように、何回も繰り返されたから」として because を含む文章の構文を無視(内容優先)してしまっている答案である。言うまでもなく前者はこれ以降の間を解答するうえで致命的である。
- (3) 下線部(1)より後寄りの文章から理由を見つけた者は、ほとんどが statement に対する反例を探し当てることができていた。ただ、せっかく「あまり勉強しなくても卒業できる大学」などのポイントを押さえることができたにもかかわらず、残念なことに「何が」の部分をまったく省略してしまっているような答案も少なからずあった。
- (4) また、「どうして」の理由を文中から具体的に見いだせなくて単に一般的なことを書くことで済ませてしまった答案も少なからずあった。
- (5) 比較的タイトな字数制限であったことからすれば、出題文の流れをとらえることができた答案は比較的多かったのではと思われる。
- (6) 最後に、「どうして」と問われれば「・・・から。」などに相当する言葉を用意すべきで、この点を軽んじている答案が、ことが基本であるだけに一層目立ったようである。
- (7) 問2は訳を求める問題ではないが、countless times を「長い時間にわたって」とするなど基礎的な単語が訳せないものもあった。

### 問3

#### 【出題の意図】

in other words, different from ~, just as 主語＋動詞というような基本的表現を理解できているかを問う問題。

#### 【解答の傾向】

この英文和訳は全体として比較的よくできていた。減点対象となりがちだったのは以下の部分である。

- (1) entrance standards は「入学基準（水準，標準でも可）」である。「入り口の基礎」等の訳だと、英文全体の意味がわからなくなる。
- (2) very different from university to university は、「大学によって非常に異なる」とするのがこなれた日本語訳であるが、「大学から大学まで」という直訳式が多かった。また different を difficult と誤読しているケースが予想以上に多かった。
- (3) just as they are in Japan の they が指すのは entrance standards。したがって、この they を「彼ら」と訳すのは不適切である。

### 問4

#### 【出題の意図】

継続的（非制限的）用法の関係代名詞が指すものを理解した上で、第五文型の受け身の形になっている箇所がきちんと訳出できるかを問う問題。

#### 【解答の傾向】

正答率がかなり低かった。間違いが多かったのは以下の部分である。

- (1) best public university は「最も良い公立大学」である。「最も公的な大学」とか「最も公式な大学」とする誤訳が多く見られた。
- (2) has a reputation for being quite selective は、「（テキサス大学オースティン校には）とても厳しい入学生選考を行うという評判がある」という意味であり、言い換えれば、「（同校への）入学はとても難しいという評判がある」という意味である。reputation や selective という単語の意味がわかっていないケースが多くあった。また quite を quit や quiet と誤読するケースも多くみられた。
- (3) この英文の前半（カンマの前）と後半（カンマの後）は並列の関係であり、どちらかがどちらかの原因あるいは結果になっているわけではないことに注意。そのような文章は、前から順番に訳していく方が間違いが起りにくい。

### 問5

#### 【出題の意図】

本文の内容を読み取り 'party school' がどのような大学なのかを簡潔にまとめる問題。

#### 【解答の傾向】

- (1) 学業よりパーティーを楽しむという内容が、楽しむではなく「楽である」や「遊ぶ」や「サボることを進めている」大学であるとの解答が多くあった。
- (2) また、学業の箇所は、「成績が悪くてもよい」や「大学を休んでもより」という解答が多くあった。
- (3) パーティーの訳は、「飲み会ばかりする」や「団体」や「政治をする」との解答が多くあった。
- (4) 後半部分の回答は、「勉強するためではなく」の箇所で多く見られるのは、「単位を取らなくても良い」や「卒業しなくて良い」である。

(5) 後半部分の回答は、「楽しむためにいく」の箇所が多く見られるのは、「飲み会ばかり」という勉強は全くせずという楽しむためと違うニュアンスが多い。

(6) 教員に対しては、「飲んだくれてる」や「教育をしない」といった本文中から解釈のできない解答がある。

## 問6

### 【出題の意図】

筆者が主張する内容の理由を読み取り、簡潔にまとめる問題。

### 【解答の傾向】

解答は質問部分の直前にあり、その箇所を探し出して、正確に訳すことができれば正解となる。しかし、work を仕事・作業、students を生徒と訳す場合が多かった。ここは日米の大学について述べている部分であり、「学習・勉強」、「学生」と訳して欲しかった。また、generous の意味が分からなかったためか、この単語を訳出せずに、「一生懸命勉強する日本人大学生と、ほんの少しの努力で卒業するアメリカの大学生では不公平だから」と解答した答案も比較的多かった。

||

## 問1 (60点)

### 【出題の意図】

基本的な語彙、表現、文法を用いて短い文章を英訳する問題。

## 問題1

### 【解答の傾向】

demand(s) against government resources と前置詞 against の使用が目立った。政府の財源に「対する」という日本語の影響だろう。decline / decrease / increase などの基本的単語のスペルミスが多かった。fewer workers とすべきところを、less workers としているものも多く、形容詞の基本的な知識が身につけていないことが窺われる。

demand is bigging なる答案を作成した「強者」も一人いた。

## 問題2

### 【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、40点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、手紙に相応しい論理的展開になっているか、そうさせるための“discourse markers”や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

### 【解答の傾向】

手紙を書くという指示を無視して、小論文風になっている解答はあったが、全体的にみてまあまあよ

くできていた。時間が限られている中、与えられた課題について真剣に考えて、面白い解答内容を思い付いた受験生が多くいた。しかし、言語力の点において、綴りの間違いが大変目立ち、また初歩的な文法的間違いが多かった。

今回の解答には気になっている社会問題と地元の議員に解決策として求めること、の2点について書く必要があったが、気になっている社会問題の紹介の仕方において似ているような間違っただけの書き方が多かったので、2つほど例を紹介しておく。

#### interested in + -ing

「高齢者人口が増加していることに興味を持っている」のようなことを表したいだろうが、「I am interested in increasing elderly people」= 高齢者人口を増やすことに興味がある= 高齢者人口を増やしたい」のような意味になってしまった“interested in + -ing”の誤った使い方がよくみられた。

実はここで問題となっているのは interested in + -ing の間違っただけではなく、increasing を形容詞としてではなく、動名詞として使っていることもある。それについては次の think about + -ing のところで説明を続ける。

#### think about + -ing

似ているような問題として、“think about + -ing”の間違っただけの使用があった。“think about + -ing”は「(～をすること) ～について考える・検討する」という意味になるので、“I want you to think about decreasing the number of children for the following reasons”は「以下の理由から、子供の数を減らすことを検討してほしい」という意味になってしまうが、この文章を書いた受験生はおそらくそういう事が言いたかったとは思えない。文章の前後関係を考えてみると、おそらく「子供の人口が減少していることについて行動をとってほしい」か「子供の人口が減少しているという問題について考えてほしい」か「減りつつある子供の人口について考えてほしい」のようなことが言いたかっただろう。ここでは、decreasing を動名詞としてではなく、形容詞として使えば問題を簡単に解決できる。例えば“I want you to think about the decreasing proportion of children in the population”（減りつつある子供の人口について考えてほしい）や“I want you to think about the problem of the decreasing proportion of children”（子供の人口減少問題について考えてほしい）や“I want you to do something about the decreasing proportion of children in the population”（子供の人口減少について行動をとってほしい）など。上記の interested in + -ing の

上記の interested in + -ing の例に戻ると、“I’m interested in the increasing proportion of elderly people in the population.”か“I’m interested in the problem of the increasing proportion of elderly people.”（増えつつある高齢者人口（の問題）に関心がある）というふうに表現すれば問題はない。他の表現方法としては、“I am concerned about the increase in the proportion of elderly people”や“I have an interest in the increasing proportion of elderly people in the population”なども可能である。

簡単にまとめると、I’m interested in とか Please think about などは使い慣れている表現だと思うが、I’m interested in 以下のところ、Please think about 以下のところ、は何でもよいというわけではないので、注意が必要。